

飲水思源

自動車販売のリーダー

3

□ 菊池武三郎伝

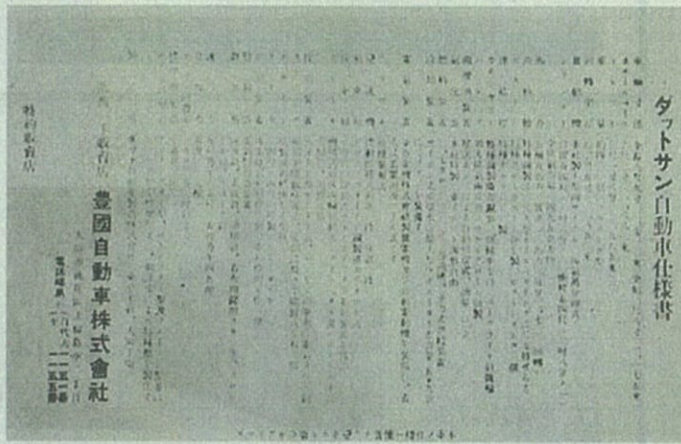
大正12年、梁瀬自動車の梁瀬長太郎の片腕とも言われた梅村四郎が、同社を離れて大阪に創設したのが豊国自動車だった。ゼネラルモーターズとダットサンの関西総代理店として重要な役割を担った。

梅村は創設に際して菊池武三郎を誘った。武三郎の手腕を高く評価していたからだ。武三郎は、同社のセールスマネージャーに就いた。

同社の関西における商圏は大阪、和歌山、奈良などだった。武三郎は、このエリアを日夜かけ回り、奮闘した。仕事に一つな武三郎に目をかけてくれた人物が、上司であった営業部長の松平八郎。俳優の高島忠夫の妻、寿美花代の父親にあたる。

松平はその後、日産自動車販売に移り、大阪配へ。戦後は大阪日産の常務となり、昭和29年

梁瀬から豊国、奈良へ



豊国自動車のダットサン仕様書

油小売を足がかりに

には奈良日産の再建のため代表取締役専務と三郎とは、商売上の競争

代日本の政治、文化の中心地で、祖先の生活の息

の油小売商を始めることになった。双子商会という看板を掲げ、現在の近鉄奈良駅の近くに小

相手となつた。吹が伝わる地。そんな奈良を巡る観光も、馬や人力車に頼る時代ではなく、武三郎が油を売り込み

大正14年秋、武三郎は豊国自動車を手を辞め、妻の秀ととも奈良に転居した。なぜ奈良の地を選び、生涯の地としたのかはよく分かっていない。奈良は古く、自動車用オイル専門

大正14年秋、武三郎は豊国自動車を手を辞め、妻の秀ととも奈良に転居した。なぜ奈良の地を選び、生涯の地としたのかはよく分かっていない。奈良は古く、自動車用オイル専門

大正14年秋、武三郎は豊国自動車を手を辞め、妻の秀ととも奈良に転居した。なぜ奈良の地を選び、生涯の地としたのかはよく分かっていない。奈良は古く、自動車用オイル専門

大正14年秋、武三郎は豊国自動車を手を辞め、妻の秀ととも奈良に転居した。なぜ奈良の地を選び、生涯の地としたのかはよく分かっていない。奈良は古く、自動車用オイル専門

大正14年秋、武三郎は豊国自動車を手を辞め、妻の秀ととも奈良に転居した。なぜ奈良の地を選び、生涯の地としたのかはよく分かっていない。奈良は古く、自動車用オイル専門

大正14年秋、武三郎は豊国自動車を手を辞め、妻の秀ととも奈良に転居した。なぜ奈良の地を選び、生涯の地としたのかはよく分かっていない。奈良は古く、自動車用オイル専門

(文中敬称略)

掲載 毎週金曜日